

次期の豊作は、今この瞬間の『ひと手間』で決まる！

～植付後・収穫後ケアの徹底が、来年の収益を左右します～ 目指せ単収7.0 t



～専門家と歩いた3日間。収穫量7万トンへの道筋～

令和8年3月2日から4日までの3日間、サトウキビ栽培の第一人者をお招きし、島内各地の圃場視察と熱い議論を行いました。

今回の視察には、サトウキビコンサルタントの**杉本先生**、沖縄県農業研究センターの**橘さん・富村さん**という専門家の方々に加え、久米島製糖の職員も同行。

現場の土に触れながら、私たちの目標である**「収穫量7万トン」**達成に向けた具体的なアドバイスを数多くいただきました。

写真で振り返る「増産へのヒント」



「これぞお手本！収穫直後のスピード管理！」

収穫後、速やかにレーキで株を露出させ、間髪入れずに肥料を散布している圃場です。この時期の「即・施肥」が、新芽の勢いを決定づけます。株元へダイレクトに栄養を届けることで、欠株を防ぎ、力強い萌芽を促進します。

施肥が遅れてしまうと生育が遅れ結果として収量減につながってしまいます。



「雑草に栄養が盗まれてます！」

生育初期のさとうきびが、勢いよく伸びた雑草に覆い尽くされてしまっている状態です。せっかく散布した大切な肥料の栄養を、さとうきびではなく「雑草」が根こそぎ奪ってしまっています。また、雑草が日光を遮ることで、新芽の成長（光合成）を著しく阻害し、分けつ（茎の数）が増えない原因となります。



「『メイチュウ』の食害に要注意！」

新芽の中心部が茶色く枯れ上がっている（心枯死）状態です。これはメイチュウ類の幼虫が茎の内部に食入し、成長点を食べてしまった証拠です。「水不足かな？」と放置してしまうと、次々と周囲の株へ被害が広がり、最終的には**「欠株（けっかぶ）」だらけのスカスカな畑**になってしまいます。薬剤による防除を徹底しましょう。

差がつく新植・株出し管理テクニック

重要

① 植付後・収穫後、即「肥料」！

植付後・収穫直後すぐ施肥を行うことで力強い発芽・萌芽へ繋がります。「初期成育」のスピードが最終的な茎の長さや太さに直結します。

「収穫したら即、追肥」を合言葉に、株の活力を維持しましょう。

② 徹底した「除草」管理！

雑草は肥料分を奪うだけでなく、害虫の温床にもなります。雑草が生える前に土壌処理剤を散布し対策を行いましょう。